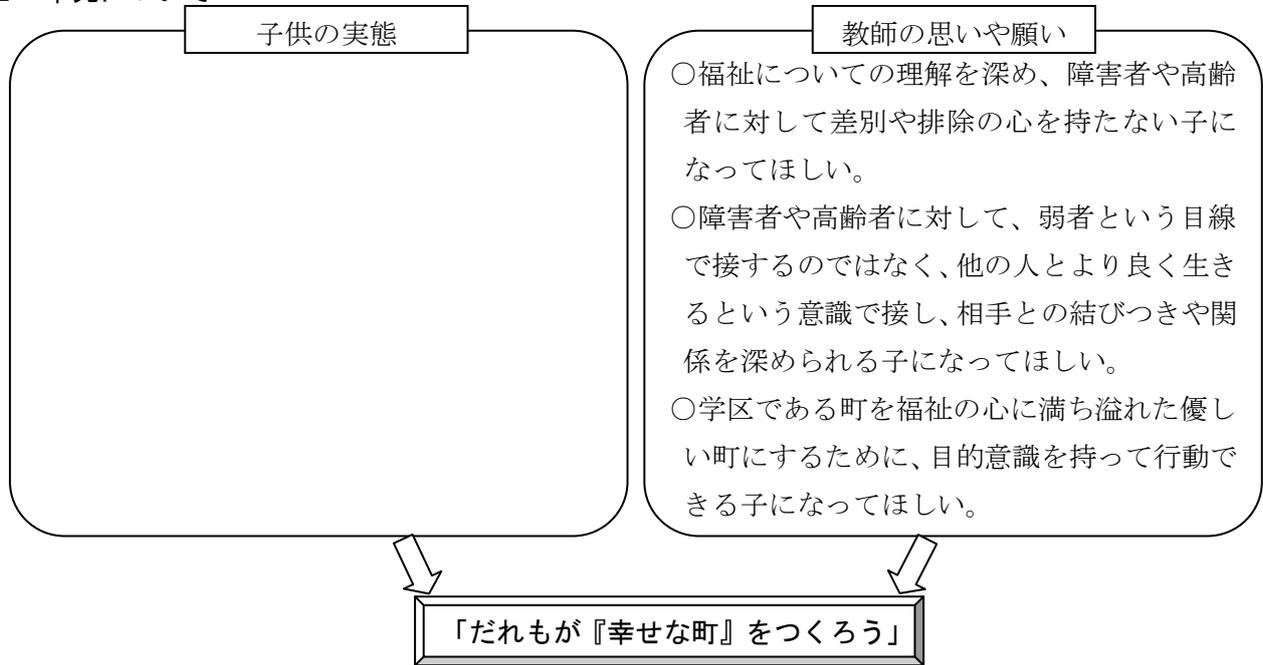


第4学年 総合的な学習指導案

1 単元名 「だれもが『幸せな町』をつくろう」(福祉教育と関連させたキャリア教育)

2 単元について

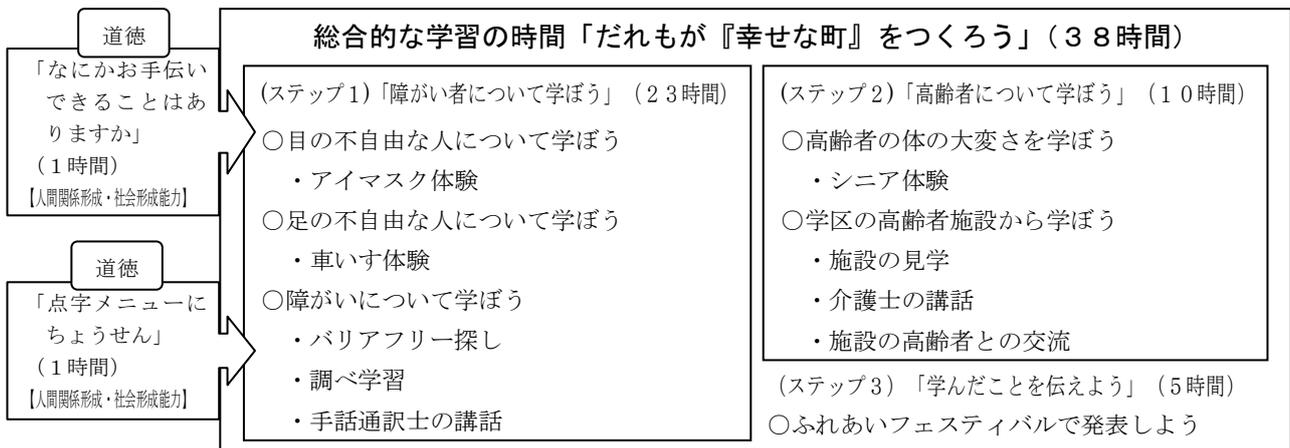


単元としての価値

2年生では、「町たんけん」の学習で高齢者福祉施設を訪問し、施設内の高齢者にインタビューをしたり、遊んでもらったりして触れ合った。3年生では総合的な学習「健康元気アップ大作戦」で健康の大切さについて学び、健康な体をつくるために目標を設定し歯磨きや運動などに進んで取り組む活動を行った。

それらの学習を受けて、4年生では地域の福祉について学習する。この福祉教育を通して、自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、一人一人それぞれの考え方や生き方を尊重し、共に生きる力を培うことを目指していきたい。そこで、体の不自由な人の身になって考えたり、それを支える人々の努力や喜びを理解できたりするようにしたい。それにより、人を思う心を育て、誰かのために働くことの喜びを体感させたい。

3 単元の構成



4 目指す児童像

本ユニットの各教科等での目標

《総合的な学習》

「だれもが『幸せな町』をつくろう」

【知識・理解】

- 体験や調べ学習を通して、障がい者や高齢者等の生活に課題を抱えた人々の置かれている現状や立場、彼らを支える人々の思いや願いを理解することができる。

【思考力・判断力・表現力等】

- 介護に従事する人々や高齢者とふれ合ったり、調べたりする活動を通して、日常生活を振り返り、自分のできることを考えることができる。

【学びに向かう力・人間性等】

- 障がいのある人や高齢者だけでなく、自分を含む様々な人にとって住みよい町とは何かを考え、社会の一員としての自分の役割を自覚するとともに、進んで地域社会に貢献しようとするすることができる。

《道徳》

「なにかお手伝いできることはありませんか」

- 相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育む。

(B 親切、思いやり)

「点字メニューにちょうせん」

- 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働こうとする心情を育む。

(B 親切、思いやり)

キャリア教育の視点からの目標

【人間関係形成・社会形成能力】

- 障がい者や高齢者の生活や不自由さを理解することができる。
(他者の個性を理解する力)
- 体験活動において、役割を果たしつつ協力し合うことができる。(チームワーク)
- 他者の情報や意見を受け止め、自分の考えを深めることができる。
(コミュニケーション・スキル)
- 多様な障がいについて理解し、一人の人間として相対することの大切さを考えることができる。(他者の個性を理解する力)
- よりよい地域社会を形成するために、自分のできることを果たそうとすることができる。(他者に働きかける力)

【自己理解・自己管理能力】

- 講話を基に自分のできることを考えることができる。(自己の動機づけ)

【課題対応能力】

- 課題を解決するために、課題に沿った計画を立てたり、情報を集めたりすることができる。(情報の理解・選択・処理等)
- 社会における福祉に関する取り組みを理解することができる。(情報の理解)

【キャリアプランニング能力】

- 体験活動を実生活と結び付けて考えることができる。
(学ぶこと・働くことの意義や理解)
- 学習したことを振り返り、今後の行動に生かそうとすることができる。
(学ぶこと・働くことの意義や役割の理解)

5 指導計画 (全40時間)

単	学習活動と内容	教師の支援・指導上の留意点	キャリア教育で育む力
総合3	○ 視覚障がい者の苦労や周囲の人ができることを考える。	○ ウェビングで視覚障害者の生活についてイメージを広げさせる。	【人間関係形成・社会形成能力】 ・ 視覚障がい者の生活や不自由さを想像できる。 (他者の個性を理解する力)

<p>ステップ1 障害がある人について学ぼう</p>	<p>道徳1</p> <p>○道徳（親切、思いやり） 「なにかお手伝いできることはありますか？」 困っている人のために、積極的に手助けをしようとする心情を育む。</p> <p>○アイマスク体験を通して、視覚障がいの大変さを実感する。</p> <p>○視覚障がい者体験を振り返り、視覚障がい者の苦労や自分にできることを考える。</p>	<p>○困っていた時に声をかけてもらった経験を話し合わせる。</p> <p>○相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。</p> <p>○一日の活動の中で様々な行動を体験させ、日常的な場面での不自由さに気付かせる。</p> <p>○今までのイメージとのずれに気づかせ、相手の立場になってみないとわからないことが多いことに気付かせる。</p>	<p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者に手助けしようとすることができる。（他者に働きかける力） <p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者役、介助者役、それぞれの役割を果たしつつ協力し合う。（チームワーク） <p>【キャリアプランニング能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動と実生活を結び付けて考えることができる。（学ぶこと・働くことの意義や理解）
<p>総合4</p>	<p>○視覚障がいだけではなく、障がいには様々なものがあることを知る。</p> <p>○「足が不自由な人」について、車いすでの苦労や周囲にできることを考える。</p> <p>○車いす体験を通して、生活での不自由さに気付く。</p> <p>○障がいについての関心を高め、今後の中心課題を決める。</p>	<p>○知的障害や精神障害など、見た目では分からない障がいがあることにも気付かせる。</p> <p>○児童が「異質なもの」「可哀なもの」といったイメージをもたせないよう配慮する。</p> <p>○ウェビングでイメージを広げさせる。</p> <p>○アイマスク体験で気付いたことを基にして、日常的な場面について意識させる。</p> <p>○障がいやその苦労について学ぶことが、誰もが幸せに過ごせる町づくりにつながっていくことに気付かせ、今後の実践への動機付けにする。</p>	<p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの種類について理解することができる。（他者の個性を理解する力） <p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いすでの生活や不自由さを想像できる。（他者の個性を理解する力） <p>【キャリアプランニング能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を実生活と結び付けて考えることができる。（学ぶこと・働くことの意義や理解）
<p>だれもが「幸せな町」をつくろう</p>			
<p>総合16</p>	<p>○図書室の本やインターネットを用いて、調べる。【調べ学習①】</p>	<p>○実践に結びつけるため、調べたことで「自分のできそうなこと」を書かせる。</p> <p>○友達との交流の時間を設け、他者の意見にも触れさせる。</p>	<p>【課題対応能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿って情報を集めることができる。（情報の理解・選択・処理等）

<p>ステップ1 障害がある人について学ぼう</p>	<p>○道徳（勤労、公共の精神） 「点字メニューにちょうせん」 視覚障がい者に点字の本を作る挿話を通して、困っている人のために働こうとする態度を育む。</p> <p>○地域の商業施設や公共施設での、バリアフリー設備や障がい者への配慮を見学する。</p> <p>○校内にあるバリアフリー設備を探す。 ・点字 ・スロープ ・多目的トイレ 等</p> <p>○千葉市立中央図書館にある点字図書コーナーを見学する。</p> <p>○図書室の本やインターネットを用いて、調べる。【調べ学習②】</p> <p>○中間発表会をする。</p> <p>○図書室の本やインターネットを用いて、調べる。【調べ学習③】</p> <p>○手話通訳士からの講話を聴く。 ・障がい者の気持ちや関わり方 ・仕事に対する思い ・子供達にも貢献できる事</p>	<p>○教科書 P.148 「みんながくらしやすい町づくり」を基に、地域での暮らしやすい町づくりについて話し合う。</p> <p>○社会科や国語での関連する内容にも触れる。</p> <p>○視覚障がい者体験や車いす体験で不自由だった体験を振り返り、見学の視点をもたせる。</p> <p>○1年生や外国籍児童のためのふりがなにも着目させ、全ての子供にとって過ごしやすいように配慮していることに気づかせる。</p> <p>○目が見えない人たちの本を読みたいという思いを社会全体で支援していることを理解させる。</p> <p>○前時を生かして、バリアフリー設備について意識して調べ学習ができるよう声をかける。</p> <p>○交流を通して、友達の考えの良かった点、自分の考え関わった点を書かせる。</p> <p>○前時を生かして、友達の発表を聞いて読みたくなった本・HPを用いてよいと声をかける。</p> <p>○特別扱いをするのではなく、ちょっと手を貸す、対等に相対することが大切だと気付かせる。</p>	<p>【人間関係形成・社会形成能力】 ・視覚障がい者に手助けしようとするができる。 (他者に働きかける力)</p> <p>【課題対応能力】 ・社会における福祉に関する取り組みを理解することができる。 (情報の理解)</p> <p>【課題対応能力】 ・社会における福祉に関する取り組みを理解することができる。 (情報の理解)</p> <p>【課題対応能力】 ・社会における福祉に関する取り組みを理解することができる。 (情報の理解)</p> <p>【課題対応能力】 ・目的に沿って情報を集めることができる。 (情報の理解・選択・処理等)</p> <p>【人間関係形成・社会形成能力】 ・他者の情報や意見を受け止め、自分の考えを深めることができる。 (コミュニケーション・スキル)</p> <p>【課題対応能力】 ・目的に沿って情報を集めることができる。 (情報の理解・選択・処理等)</p> <p>【自己理解・自己管理能力】 ・手話通訳士の話を基に、自分のできることを考えることができる。 (自己の役割の理解)</p>
--------------------------------	--	--	--

<p>ステップ1 障害がある人について学ぼう</p>	<p>○図書室の本やインターネットを用いて、調べる。 【調べ学習④】</p> <p>○学習カードを用いて全4回の調べ学習を整理して、障がいについて自分なりの考えや意見を持てるようにする。</p>	<p>○前時を生かして「自分は何ができるか」「何をしたいのか」を意識して調べられるよう声をかける。</p> <p>○世の中には様々な立場の人々がいることを前提に、それぞれの立場や意見を互いに尊重していくことが結果的に誰もが幸せに暮らせる町づくりにつながることを意識させる。</p>	<p>【課題対応能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に沿って情報を集めることができる。 (情報の理解・選択・処理等) <p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な障がいについて理解し、一人の人間として相対することの大切さを考えることができる。 (他者の個性を理解する力)
<p>ステップ2 高齢者について学ぼう</p>	<p>○「高齢者」についてのウェビングを行い、高齢者の苦勞、周囲にできることを考える。</p> <p>○シニア体験を通して、高齢者の大変さを実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目の前がよく見えない ・音や声がよく聞こえない ・手足が重い ・指先がうまく使えない 	<p>○シニア体験で気付いたことや障がいを持つ人について学んできたことを基にして、周囲がどのように介助すればよいか考えさせる。</p> <p>○高齢者の体の不自由さを体感させる。</p> <p>○町は高齢者が多いこと、自分もいつかは高齢者になることに気付かせ、身近な問題として考えさせる。</p>	<p>【人間関係形成・社会形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活や不自由さを想像できる。 (他者の個性を理解する力) <p>【キャリアプランニング能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を実生活と結び付けて考えることができる。 (学ぶこと・働くことの意義や理解)
<p>ステップ7 総合</p>	<p>○施設で働く介護士への質問を考える。</p> <p>○施設の見学計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の機能を把握する。 ・見学の観点を理解する。 <p>○施設を見学する。</p> <p>○施設で働く介護士から、高齢者との関わり方や仕事に対する思い等を聞く。</p>	<p>○仕事の内容への質問だけでなく、自分たちにできることも意識させる。</p> <p>○写真を提示し、施設内の様子を想起しやすくさせる。</p> <p>○介護の様子を提示し、介護士の仕事ぶりに着目させる。</p> <p>○児童が自発的に見学したり、質問したりできるよう、少人数グループで自由に見学をさせる。</p> <p>○仕事への思いや生きがいについて聞き、人のために尽くすことが自分の生きがいとなることに気付かせる。</p>	<p>【課題対応能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に沿った質問を考えることができる。 (計画立案) <p>【課題対応能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に沿った見学計画を立てることができる。 (計画立案) <p>【課題対応能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会における福祉に関する取り組みを理解することができる。 (情報の理解) <p>【自己理解・自己管理能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳士の話を基に、自分のできることを考えることができる。 (自己の役割の理解)

<p>ステップ2 高齢者について学ぼう</p>	<p>○介護士の話を取り返しながら自分たちにできることを考え、施設との交流計画を立てる。</p> <p>○施設の高齢者との交流会。 ・歌、花笠踊りの発表 ・手細工を教わる。</p> <p>○施設での交流会を取り返り、身近な高齢者に何ができるか考える。 ・セーフティーウォッチャー ・いつも顔を合わせる〇〇さん ・自分のおじいちゃん、おばあちゃん</p>	<p>○一方的に「～してあげる」という関係ではなく、互いに尊重し合えるような関係づくりを目指す。</p> <p>○子供達の明るい声や笑顔だけでも、高齢者に元気を与えられることに気付かせる。</p> <p>○簡単にできることや継続してできることで計画させる。</p> <p>○個々の児童に合った実践方法を行うよう声をかける。</p>	<p>【課題対応能力】 ・目的に沿った交流計画を立てることができる。 (計画立案)</p> <p>【人間関係形成・社会形成能力】 ・よりよい地域社会を形成するために、自分のできることを果たそうとすることができる。 (他者に働きかける力)</p> <p>【人間関係形成・社会形成能力】 ・よりよい地域社会を形成するために、自分のできることを果たそうとすることができる。 (他者に働きかける力)</p>
<p>ステップ3 学んだことを伝えよう</p>	<p>○ふれあいフェスティバルでの発表に向け、資料をまとめる。</p> <p>○ふれあいフェスティバルで福祉について学習したことを発表する。</p> <p>○単元全体の振り返り</p>	<p>○アイマスクや車いすなどを用いた福祉体験を組み入れたり、写真を提示したりして、聞き手を引き付けるよう発表の仕方を工夫させる。</p> <p>○障がい者や高齢者が日常生活で不自由していること、自分たちにできるちょっとした手助けの例を提示し、聞き手にも福祉の心を持ってもらえるような発表をさせる。</p> <p>○「わかったこと(知的理解)」「考えが変わったこと(心情の育成)」「やってみたこと、今後やっていきたいこと(実践力の育成)」の3つの観点で自己の成長を振り返らせる。</p>	<p>【課題対応能力】 ・聞き手を引き付けられるよう発表の仕方を工夫することができる。 (情報の理解・選択・処理等)</p> <p>【人間関係形成・社会形成能力】 ・よりよい地域社会を形成するために、福祉の心を呼びかけることができる。 (他者に働きかける力)</p> <p>【キャリアプランニング能力】 ・学習したことを振り返り、今後の行動に生かそうとすることができる。 (学ぶこと・働くことの意義や役割の理解)</p>

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・ 体験したことをもとに、介護士への質問を考えることができる。【思考・判断】
- ・ 高齢者を介護するときの苦労や努力、工夫がわかる質問を考える。【課題対応能力(計画立案)】

(2) 展開 (28 / 40)

学習活動と内容	指導と評価 (◎教科等 キャリア教育☆)
<p>1 介護士の仕事について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護士はご飯を食べさせたり、お風呂に入れたり大変そう。」 ・「どんな苦労があるのかな。」 ・「介護士に教えてもらえば、いろいろなことがわかるんじゃないかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護士の仕事を大型テレビで映し出し、介護士の仕事内容を確認する。 ○介護士の仕事を掲示し、介護士の仕事について振り返ることができるようにする。 ○障がい者体験やシニア体験を振り返らせ、介助の大切さや関わり方に関心をもたせる。
<p>介護士はどんな気持ちで仕事をしているのかな。介護士の心がわかるような質問を考えよう。</p>	
<p>2 介護士への質問を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「介護士は、普段どのような仕事をしているのですか。」 ・「介護士になったきっかけは何ですか。」 ・「介助の仕方コツはありますか。」 ・「高齢者と接する時にどのようなことを意識していますか。」 ・「仕事でやりがいを感じるのはどんな時ですか。」 ・「仕事が大変な時やつらい時はありますか。それはどんな時ですか。」 ・「町の高齢者のために、私たちに何かできることはありますか。」 <p>3 質問を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「全部を質問することは時間的に不可能だから、優先順位をつけようよ。」 ・「介護士の思いに触れる質問は、絶対に必要だね。」 ・「似たような質問ばかりにならないように気をつけよう。」 <p>4 介護士の返答を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイマスク体験や車いす体験では、相手のために役に立ちたい気持ちだったよ。 ・「高齢者からの『ありがとう』っていう言葉がやりがいじゃないかな。」 <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高齢者の皆さんを幸せにするには何ができるのか、しっかり話を聞いて地域の高齢者の役に立ちたいな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○この学習を通して地域をよりよくするのが目標であるということを確認し、目標達成に向けてどんなことを聞きたいか考えさせる。 ○手話通訳士への質問を掲示しておき、仕事への思いに迫るためにはどのような質問が有効であったか振り返らせる。 ○質問を板書し、質問を考えられない児童の参考にさせる。 ◎体験したことをもとに、介護士への質問を考えることができる。【思考・判断】 ☆高齢者を介護するときの苦労や努力、工夫がわかる質問を考える。【課題対応能力(計画立案)】 <p>○ゲーム形式で質問を整理しながら、友達の考えにふれさせる。</p> <p>○「仕事の内容」「仕事への思い」「自分達に何ができるか」の3つの視点を確認し、質問を整理する際の目安にさせる。</p> <p>○アイマスクや車いすでの福祉体験や施設での見学、過去の校外学習での経験をもとに介護士の気持ちを想像させる。</p> <p>○よりよい地域づくりに向けて、次時の学習での介護士の話をヒントにしようとする意識をもたせる。</p>

4年 組 名前 _____

介護士の心がわかるような質問を考えよう。

【絶対に質問したいこと】

<こんな返事が返ってくるんじゃないかな>

【その次に質問したいこと】

<こんな返事が返ってくるんじゃないかな>

【その次に質問したいこと】

<こんな返事が返ってくるんじゃないかな>



【今日の学習の感想（介護士さんのこんな気持ちにふれてみたいな）】